

## 疾患名：発達障害

### 1. 日本における有病率、成人期以降の患者数（推計）

成人の有病率は3%程度

患者数は約150万人

### 2. 小児期の主な臨床症状・治療と生活上の障害

症状；社会性の障害、行動抑制の障害、文字や数字の認知障害

治療；薬物療法、認知行動療法、言語療法

生活上の困難；学校での孤立、家庭内での葛藤、学業不振

### 3. 成人期の主な臨床症状・治療と生活上の障害

症状；独特な価値観に基づく非常識な考えととらわれ、衝動的な行動、本が読めない、書類が書けない、計算を間違える

職場での人間関係、感情の爆発、学力不足による事務処理困難

### 4. 経過と予後

職場を転々とする、職業に就かず引きこもる、家庭がもてない、家庭を持ってもパートナーや子どもとの葛藤、子どもの学校関係者や病院スタッフとの葛藤など、人生のいろんな場面において、他者との葛藤を抱える。

### 5. 成人期の診療にかかわる（べき）診療科

精神科

女性は産科も必要

### 6. 成人期に達した患者の診療の理想

a. 成人診療科（診療科名：精神科、産科）に全面的に移行

### 7. 成人期に達した患者の診療の現実

b. 小児科と成人診療科（診療科名：精神科）の併診

### 8. 理想(6)と現実(7)の乖離の理由

a. 成人診療科側の受入れの不備・不十分

9. 成人期に達しても移行が進まない場合の問題

発達障害成人の診療は、手間がかかる。

コスト的にも見合わない。

精神科がやりたがらない。

10. 解決のためにすべき努力

a. 成人診療科の医療者を対象に疾患についての教育・啓発

コメント

成人を診る精神科がコスト的に見合うようにすること。

11. 移行に関するガイドブック等

e. 未定